

＜報告完了書＞

2017年度在宅医療助成(前期)テーマ

「看取りの経験を語る会」

＜テーマ＞

「どのような最期を望みますか
～様々な看取りの場面から」

＜申請者＞

青木達人(ならていぶ函館事務局長)

＜提出年月日＞

2017年9月27日

＜開催目的＞

函館地域の一つの医療機関や介護事業所が学び実践するだけではなく、地域の多職種が共同して学び実践できる場をできるだけ多く作っていくことが大切ではないか？その中に、ならていぶ函館の共通の理念である、ナラティブアプローチを大切に活動をすすめてきました。

その中で、今回は、市民に日常私たち自身が経験した看取りの場面を語り、市民の皆さんに知ってもらおうと同時に市民のみなさんと「看取り」について話し合おうと企画しました。時間も限られていますが、今後の地域での活動のきっかけになればと思います。

地域の患者さん、利用者さんは、「ボールではない、一人一人手渡しをして自分たちの地域を自分たちで支えていく」地域での生活を寄り添い支えていくことが、在宅医療を支えていく土台となるものと考えています。その、寄り添う地域づくりの一環としてこの企画のから考えていくことを目的としました。

＜ならていぶ函館事務局＞（五十音順）

青木達人（函館稜北病院 社会福祉士）

岩浪佳晃（サンセイ薬局 薬剤師）

小笠原達朗（グループホーム ひなた園長 介護福祉士）

大淵裕（函館稜北病院 理学療法士）

加藤由美（ジャパンケア ケアマネジャー）

川口篤也（函館稜北病院 医師）

川瀬悟史（ハートTOハート ケアマネジャー）

佐々木悟（函館稜北病院 医師）

佐藤やすよ（しらゆり美原 看護師）

所輝美（居宅介護支援事業所えん ケアマネジャー）

羽根川まき（ジャパンケア訪問看護ステーション 看護師）

益井基（益井治療院 鍼灸師）



ならていぶ函館特別企画

「どのような最期を望みますか」 ～様々な看取りの場面から～

ものがたり診療所 佐藤伸彦先生を迎えて
多くの方々と看取りについてお話したいと思います。
この機会に自由に意見交換し 学びを深めましょう
どなたでも参加できます。参加費は無料です

「看取りについて市民のみなさんへのスピーカー」

佐藤伸彦先生 (ものがたり診療所 所長)
小笠原達郎さん (グループホームひなた園 園長)
佐藤やすよさん (介護付き
有料老人ホーム白ゆり看護師)



日時 2017年8月19日 土曜日
午前10時30分から12時00分
会場 函館市まちづくりセンター
主催 ならていぶ函館
「この研修会は公益財団法人医療助成
勇美財団の助成を受けています」

主催 ならていぶ函館 連絡先(株)メディカルオフィス・創健
函館市湯川2丁目16-1 電話 0138-36-1055
FAX 0138-36-1056

<実施の状況>

函館地域で、市民を対象として看取りについて、まず、自分たちの日常の実践を聞いていただき、その後参加された市民とともに看取りについてディスカッションをおこなった。実践報告は、実際に看取りの場面を経験している函館市内の事業所から訪問看護師、介護福祉士からお話をしてもらった。その後、総括的なまとめをものがたり診療所佐藤伸彦先生からおこなっていただいた。

<開催内容>

参加者 67名

日時 2017年8月19日 10時30分から12時30分

(会場 函館まちづくりセンター)

演題 「どのような最期を望みますか～様々な看取りの場面から」

演者 小笠原達朗 (ひなた園 園長)

佐藤やすよ (しらゆり 看護師)

佐藤伸彦 (ものがたり診療所 所長)

<良かった点>

一般の市民に北海道新聞地方紙みなみかぜなどで宣伝して、幅広い年齢層の参加があった。討論型式も取り入れ双方向の交流ができた。宣伝費用の節約にもつながったと思う。

看取りについての考え方の情報交換や話しあいの機会ができ、今後もこうした取り組みを進めていきたいと主催者の中からも積極的な意見が出ていた。市民の間にも看取りの現場をお知らせすることができた。

講師のまとめの時間を取り、在宅医療と看取りについて広く知ってもらうことができた。その中で、意思決定支援・倫理といったなかなか馴染のないテーマについても討論のなかから話題になり意見交換ができた。

準備段階から、地域の多職種で事務局会議に取り組むことができ、地域のなかで事業所を超えた取り組みをおこなうことができた。

参加費が無料のため呼びかけやすかった、公共施設を利用したため、本来の予算化した料金よりやすく利用ができた。また、時間が延長したが、料金が1日の設定なので、時間を気にせず準備などができた。

<反省点>

もう少し時間があつた方が良かったかもしれなかった。

日程調整の際に今後も配慮していく必要があつた。

情報交換の時間をもう少し持った方が良かった

宣伝の方法もまた色々の工夫して考えていきたいと思った。

当初より時間が30分ぐらい延長した、

<課題>

今回もこうした取りくみを継続させてほしいとの市民の声が多数寄せられた

引き続き、地域の中で実践して、地域の中に色々お知らせして共に考えていきたいと思った。そこを次回以降、話しあいの機会を継続させていきたいとの声が多かった。

市民の皆さんが参加しやすく、意見が出しやすい雰囲気をもどのように作っていくか考えていきたい。

当日の参加者のなかから以下の質問がだされました。

Q1 看取りはどんな施設でもできるのか？

Q2 在宅医療をしてくれる医師がわからない

Q3 何か急性期の病院から見捨てられたような言い方をされてしまう

<全体の感想の紹介>

<アンケートの集計結果>

参加者67名 アンケート回答者54名

1、本日の講座について

- 1、大変参考になった 54名 2、参考になった 1名 3、普通 1名
4、あまり参考にならなかった 0名 5、参考にならなかった 0名

2、日常の看取りについて、医療機関や介護施設なども含めて

感じていることをお書きください。

(記述式)

- ・まだまだ連携を重視していない個人開業医の先生や大病院のスタッフの冷たい態度に悩まされています。
- ・介護施設では看護師がいない時間帯もあるといわれた。対応できないこともあり、病院との連絡で難しいと思うことがある。
- ・医療機関にかかった時にどういう情報があれば状態をきちんと伝えられるかも勉強していきたいです。
- ・確かに今のICは患者さんや家族に選択を迫るものになっている。
- ・家族とどう生きたいか、話しあいたいと思いました。
- ・看取りというものが特別なものではないということを感じました
- ・日頃の話し合いも大事だなと感じました。

「公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成による」